

ニュース 玉手箱



園児が土とふれあう



大 石田保育園の5歳児12名が、5月27日(月)に町特産のすいかの苗植えを体験しました。

これは、自分で植えた農作物の成長を見てもらい、収穫の喜びを感じてもらおうと、食育活動の一環として行われたもので、園児らは活動に協力した星川祐一さん(駒籠)のすいか畑で、土を手で掘って苗を植え、土をかぶせる作業を体験しました。子どもたちは、星川さんに教わりながら一つ一つの作業をていねいに行いました。この日植えたすいかは8月中旬ごろに食べごろを迎えるということで、保育園では大きくなったすいかの収穫体験も行うことにしています。

ボートで最上川を体感

ゴ ムボートで最上川を下るトムソーヤの冒険in最上川が6月9日(日)に行われ、町内の小学生13名が、川端地区から川前地区までの約5キロの川下りに挑戦しました。

「トムソーヤの冒険シリーズ」は、町教育委員会と放課後子どもプラン運営委員会の主催で毎年行われているものです。子どもたちはゴムボートに乗ると、大石田アウトドアクラブ遊Be隊(柴田和徳代表)のメンバーに教わりながら、パドルを使って力いっぱいボートを漕ぎ約5kmを1時間半かけて下りました。子どもたちはパドルを使って水をかけ合うなど、普段見慣れていても味わうことのできない体験で、最上川とのふれあいを満喫しました。



周遊観光プロジェクト報告会

銀 山温泉を訪れる観光客に、観光の起点となる大石田駅周辺の情報を紹介し周遊観光を促そうと、富士通(株)などと共同で行った実証実験「銀山大石田周遊消費促進プロジェクト」の報告会が5月29日(水)にKOE no KURAで行われ、地域おこし協力隊の香坂明さんや富士通の担当者から参加した商店主などに向けて実験結果が報告されました。

実験は、駅から温泉宿までの経路にQRコードを掲載したポスターなどを設置して、大石田駅周辺や銀山温泉の情報を紹介した特設サイトに誘導するというもの。デジタルマーケティングという観光分野では珍しい手法の取り組みで、一般的な情報サイトよりも閲覧数が多くなったことが報告され、参加者と今後の展開について意見が交わされました。



ながーい自然薯楽しみに



大 石田南小学校の6年生児童が5月24日(金)に自然薯の植え付けを体験しました。これは大石田町新作物開発研究会(海藤明会長)の協力で毎年行われているものです。苗植え体験は学校脇の畑で行われ、研究会のメンバーのほかウイルスフリーの苗を研究会に提供している村山産業高校農業部の生徒も参加し、児童らに植え付けを指導しました。

児童らは畑に穴を掘って種芋を横向きに植え、その上から土をやさしくかぶせていました。学校では秋に収穫体験を行い、児童が調理する自然薯料理を楽しむ収穫イベントを行う予定です。

万葉集を読む読書会



新 しい元号・令和の典拠にもなった古典「万葉集」を読む読書会の1回目が5月21日(火)に虹のプラザ小会議室で開催されました。万葉集は奈良時代の末にできた日本で一番古い歌集で、天皇や貴族から農民まで幅広い階層の人が作った約4,500首の歌が収められています。

読書会ではその中で最も多く収められている“相聞”とよばれる男女の恋歌をテーマに取り上げ、参加者は相手を感じる繊細な歌を声に出して読み、当時の貴族たちの恋愛について意見を交わしていました。万葉集を読む読書会はこのあと来年の3月まで、毎回テーマを変えて開催される予定です。

子育てのイライラ吹き飛ばそう

横 浜市の保育施設の代表で、NHK・Eテレ「すくすく子育て」に出演している柴田愛子さんによる講演会が6月2日(日)に虹のプラザ中会議室で開催されました。

この講演会は子育てサークル・小さなおもちゃばこの会(吾妻満代表)が主催したもので「子育てはどうしてイライラするのか?しつけ編」と題して、柴田さんは、しつけやしかり方をテーマに、どのように子どもと向き合うべきかを運営する保育所で起きたエピソードを披露しながら話しました。講演会に参加した子育て中の保護者や保育関係者など約80人は、ユーモアたっぷりの柴田さんの話に熱心に耳を傾けていました。

